

建設技術者のための この一冊

2020年3月号より「建設技術者のためのこの一冊」を連載しています。新旧の学術図書、随筆、小説等を紹介します。会員の皆様の自己啓発、幅広い見識の形成等にお役立てください。

大暴落 ガラ

内閣総理大臣・三崎皓子

著者：幸田 真音
発刊：中央公論新社
定価：968円（税込）



この小説の主人公は三崎皓子。そして準主人公とも言えるのが里見宏隆。この2人がそれぞれ軸となって物語が展開されていく。

三崎皓子は、日本初の女性総理大臣。与党議員の一部と野党の共闘により異例の形で総理に就任する。

里見宏隆は、大学で土木工学を学び、国土交通省に勤務。本省を経て関東地方整備局荒川下流河川事務所の所長を務めている。

三崎は、与党幹部の同意が得られず、組閣が難航する。一方で、関東地方に梅雨前線が停滞し、台風が接近する。大雨により荒川の水位が上昇、ついに堤防が決壊し、東京は濁流に飲み込まれる。日本企業の株価は下がり、国債市場は機能不全となり、外国為替市場では円が売られる。大暴落、ガラとなる。

本書は、鬼怒川決壊の翌年の平成28年頃に執筆。近年、毎年のように全国各地で深刻な水害が発生している。令和元年の台風19号では、

千曲川や阿武隈川など全国140箇所以上で河川の堤防が決壊。このとき、荒川も上流部の支川で氾濫。都内を流れる本川はなんとか持ちこたえた。

仮に、荒川が都内で氾濫すれば、この小説のとおり事態となるかは別として、日本経済に大きな打撃を与えることになるだろう。

本書では、公務員として、技術者として、インフラの整備・管理により社会を支える里見所長らの心意気、台風を迎えて管内のパトロール、水門の操作、応急復旧等に奮闘する事務所職員の姿が描かれている。経済小説の分野で活躍してきた著者が、同事務所に取材を重ねて本書を執筆。

著者独自の視点で、日本の社会と国土の脆弱性、危機管理のあり方を問いかける一冊。